

平成 28 年

第 1 回総合教育会議会議録

(開会 平成28年 8 月 9 日)

(閉会 平成28年 8 月 9 日)

岐阜県 可児市

平成28年8月9日午後1時59分開会
会場：市役所5階第2委員会室

出席者

富田成輝（市長）

生駒隆昌君（教育委員）

丹羽千明君（教育委員）

籠橋義朗君（教育長）

小野口裕子君（教育委員）

星野京子君（教育委員）

説明のために出席した者

長瀬治義君（事務局長）

梅村高志君（学校教育課長）

細野雅央君（教育総務課長）

出席事務局職員

石原雅行君（教育総務課総務係長）

本田雄太君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

① 特別支援教育について

② その他

開会の宣告

- 市長（富田成輝君） 平成28年度第 1 回総合教育会議の開催を宣告。

あいさつ

- 市長（富田成輝君） 大変暑い中、お集まりいただき感謝する。本日の議題は、特別支援教育についてとその他とある。ご自由に意見を頂戴したい。

議題

- 市長（富田成輝君） 1つ目の議題、特別支援教育。教育委員の皆様については、特別支援学級に対する取り組みの現状把握のため、市内小・中学校を訪問された。その訪問された状況、感想など、聞かせていただきたい。

- 教育委員（生駒隆昌君） 学校訪問を16校行い、主に特別支援の現状を各特別支援担当の先生方と懇談、授業を見学した。年々特別支援のクラス、人数がうなぎ登りにふえており、手いっぱいな現状。また、1学級8人編成であり、支援が必要な児童・生徒最大8人を1人の先生で見るということは非常に大変。マンパワーが欲しいとのこと。しかし、人員の配置は現状、難しいとのこと。

ほかに、教材面ではいかがかと伺ったところ、知的・発達障がい等、支援を受けられる状況も一人一人違うため、統一した教材での対応は難しい。その中で、色々なソフトがあるタブレット端末を教材として使えると一人一人に対応した指導ができると伺った。

- 教育委員（小野口裕子君） どの学校も、支援を要する児童・生徒が多くなっており、担当教諭も以前より多くなっているが、まだまだ足りない。複数人の支援を1人の先生で行うと、手薄になってしまう部分がある。

ほかにも問題として、グレーゾーンの児童・生徒への学習支援の場がこれから必要になってくると学校から伺った。既にそのようなクラスを設けている学校もあるが、多くの学校では対応ができていない。学習面でおくれる子、LD・ADHD、また、そこまで診断がなくとも、それに近い児童・生徒が各クラスかなりいるとのこと。

- 教育委員（丹羽千明君） くれよん利用者の増加傾向を見ると、さらにこれから特別支援学級の児童・生徒はふえると予想できる。ある小学校のクラスの例で、7人の中に1年生から6年生がおり、その中にフィリピン人2人、ブラジル人2人と、それを1人の先生が見るのは、他とは負担が違うのでは。そのときにスクールサポーターがいてすごく助かっていると伺った。どの学校も、1人でも2人でもよいのでふえてほしいとのこと。

- 教育委員（星野京子君） 1学期に全部の小学校・中学校を回ることを教育委員として大事にしており、ことしは特別支援学級の先生と懇談し、子供一人一人に寄り添うという点で、どの学校もそれに対してすばらしく思う。また、特別支援学級や、そ

こには行っていない子供たちのことも、各学校が把握しているということはすばらしい。しかし、やはり人は足りないと感じる。ある中学校の特別支援学級の先生は、もう1人私が欲しいと。どの学校も一生懸命やっけていただいているので、先生方や子供たちを応援できるような配慮を願う。

- **市長（富田成輝君）** 貴重な御意見をいただき感謝する。財源も先生も限られている中で、全てを対応するには非常に難しいとは思いますが配慮したい。教育委員会に配分した中でさらにどの事業に分配するか。最終的にはその選択になる。その場合に、特別支援学級の児童・生徒たちを小・中学校を通じてどんな力をつけさせたいと。一人一人違うかもしれないが、共通で特別支援学級の子たちに、最低限こういうレベルにして義務教育を終わらせたいという基準はあるか。
- **学校教育課長（梅村高志君）** 障がいの種別により随分違うが、社会的な障壁を取り除きたい。日常生活、社会生活を営む上で、いろいろな場面においても生き抜いていける、人として基本的な力の基礎を培って社会に送り出したい。そのことをベースにし、その子に応じた学習的な力の素地を磨き、社会的な素地を鍛えて送り出したいと考えている。
- **市長（富田成輝君）** 数値目標はあるか。例えば学習の場合は最低ここまでは達成させたいや、コミュニケーション力はどの程度つけたいなど。
- **学校教育課長（梅村高志君）** 通常学級においては、学習指導要領という最低限の力をつけてあげたいという一つのスタンダードがある。また、知的障がいのある方たちには、別のカリキュラムで個別の指導計画を法によって作成することとなった。
- **市長（富田成輝君）** 個人個人ではあるが、共通した最低限、通常クラスの学習指導要領のような目標はないと。それが結果として、その子なりの生きていける力をつけさせることになるのでは。
- **教育委員（小野口裕子君）** 小学校の高学年になると、その子の将来を見据えた指導をすると伺いました。本人に限らず、保護者の方にも強く意識づけし、将来自分で生きていける力をつけることを目指すと。現在は受け皿ができたこともあり、特別支援学級の子供たちの進学率も高まっている。
- **市長（富田成輝君）** 進学率というのは高校への。
- **教育委員（小野口裕子君）** 高校や特別支援学校へ行く子が多くなった。特別支援教育育成会の卒業生激励会の席で、一人一人が自分の将来に向けて、自分はこの目標で頑張るということを力強く発言していた。そういうことが言える教育を9年間の義務教育の中で受けてきてくれたということは、うれしく感じる。より、将来を見

据えた指導をしていかななくてはと感じた。

- **市長（富田成輝君）** その間、環境、先生もかわると思う。その子の記録は整理されているので、それを見て後任が指導すると思うが、問題はないか。
- **学校教育課長（梅村高志君）** その点が今、重要視されており、今回の法の改正の中で一人一人の指導計画と支援計画の2種類を全ての学校、全ての児童・生徒に対し計画を作成することが義務化された。指導者がかわっても、昨年度までどういうプロセスで今に至っているか、その年の成長や課題を積み上げながら、毎年、橋渡しができるようになった。
- **市長（富田成輝君）** 人事異動は、いい面を伸ばして悪い面を補うということと思う。現状、マンパワー、財源、教材等足りていないことが多くあるが、現実可能なことで優先順位をつけるとするといかがか。
- **教育委員（丹羽千明君）** スクールサポーターがふえるとよい。昨年度、1人ふえたことでも違う。
- **学校教育課長（梅村高志君）** 毎年、学校の状態は変わるため、スクールサポーターをどの学校に何人配置するかをゼロから考える。困り感の高いところから配置する。A中学校の状況は非常に安定度が増しているから1人をより困り感のあるB小学校にと。昨年1人増で、困り感が高かった学校が1つ救われ、非常にありがたい。
一方、教材的な一人一人の障がいに応じた手だて、これも切実感が高く、どちらかとは、軽々に答えられない状況にある。
- **市長（富田成輝君）** 適当な教材はあるのか。
- **学校教育課長（梅村高志君）** タブレットの話が出たが、子供たちの障がいにもさまざまな種別があり、例えば、文字を読むこと、書くこと、自分の気持ちを的確に言葉を選んで伝えること、聴覚情報を取り込むことが困難など。その際、絵カードで示す、音声ガイドが指示をしてくれる、映像を見るなど、文部科学省のデータでは、そういった困り感に個別に対応するに非常に効果的だと出ている。また、ICT教育の効果として、通知表の成績が4や5の子の伸びしろはあまりないが、1や2の子が使ったときに伸び幅が高いとグラフで出ている。より効果が高いかという視点からいうと、特別支援の子や集中力が続かない子、外国人の子など、そういったところへの費用対効果がより高いと言われ始めている。
- **市長（富田成輝君）** 外国籍の話が出たが、諸外国と比べ日本の特別支援のレベルはどうか。

- **学校教育課長（梅村高志君）** フィンランドへ視察に行かれた方の視察報告をたまたま聞いたが、北欧のほうはすごく進んでいると。ただ、細かい情報は得ていない。
- **市長（富田成輝君）** 機会があれば調べるとよい。研究もしていると思う。
- **教育委員（丹羽千明君）** ICT化の件だが、支援学級の2年生を教えているときに1年生はタブレットで学習できるなど、全校一度に与えるのではなく、実験的に数校導入できるとよい。
- **市長（富田成輝君）** 他の市町村では、結構ICT化が進んで、全生徒に1人1台あるところも。市としては、ある程度効果を認められる台数が確保できるとよいと。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 支援学級や外国籍の方などへ。
- **市長（富田成輝君）** 平成12、13年頃、オーストラリアで視察をした。オーストラリアは日本と違い通学にとっても時間がかかるため、場合によっては在宅教育が必要で、完全に1人1パソコンを既に実施している学校が幾つかあったが、人と人とのコミュニケーション能力がそれで行くのかという若干疑問は感じた。しかし、今回は違って、特別支援学級の場合はタブレットを使った効果というのは期待できると。
- **教育委員（小野口裕子君）** 視覚で訴えると理解できるという子など、そういった子たちにとってはとても有効的だと思う。臨床美術という分野があり、脳の活性化に役立つと。
- **市長（富田成輝君）** かにっこ英語で活用されているとも聞いた。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 耳で覚える子、見て覚える子など様々。一人一人に違った方法で指導ができ効率的だと考える。
- **教育委員（星野京子君）** タブレットの例として、筆力が弱い低学年の児童が文字・漢字を覚えるために、字をなぞり覚えが早いという効果もある。
- **市長（富田成輝君）** 話をまとめると、一人一人の目標、到達計画を作成し、先生がかかわっても継続できるようにする。社会で生きるための学習と力をつける。そのためには一人一人の個性を把握するよう努める。その助けとして、スクールサポーターが一人でも多く補佐すると共に、タブレット等を使った教材の有効性を考え整備していくということと。
- **教育委員（生駒隆昌君）** そういうことである。

- **市長（富田成輝君）** 支援学級等について学校は入ったほうがいいと思っているが親は入れたくない。その逆もあると思うが、その状況についての対応はどうか。
- **学校教育課長（梅村高志君）** 全国的に通常学級で発達障がいを抱えながら生活している児童は約6.5%、可児市で換算すると8,200人に対し500人がその可能性のある児童。その6.5%は軽度発達障がいといい、特別支援学級に入級をさせるまでの障がいではないが、何らかの手だてが必要であるという児童。例えば、LD（学習障がい）、ADHD（注意欠如多動障がい）、自閉症スペクトラムがある。しかし、現在の国の制度でこれらは特別支援学級入級対象者ではない。その対応として約9年前の法改正により、週に何時間か面倒を見る通級教室ができた。その中には、学校としては入級をさせたいが、保護者が賛成しない、またその逆もいる。
- **市長（富田成輝君）** 理解した。
- **教育委員（丹羽千明君）** 通級学級が自分の学校にあるないで入級率がかなり違うと伺ったが、いかがか。
- **学校教育課長（梅村高志君）** 通級開設は県に要望を出し、認められるかどうかで決まる。大体の目安で、自校・他校の児童・生徒、合わせて10人以上は必要であり、全ての学校に通級学級をつくることを前提にしてない。
- **市長（富田成輝君）** 特別支援学校と同じ考え方ということか。
- **学校教育課長（梅村高志君）** 送迎は学校の先生でできないため、保護者ができる条件等がそろったときに認可し、そこに加配が充てられる。その先生は週当たり24時間程度の授業を持つ。全学校にあることが望ましいが、現状、通うことを前提としている。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 先ほども話が出たが、高校へ進学する子もふえている。最終的には可児市に戻って就職ができる。早い時期の支援によりそのような子が出てきていることが事実としてあると思う。専門職の技術的な訓練や指導ができる高等支援学校が芥見にある。
- **教育委員（小野口裕子君）** 学区ではないため通学できない。可児市からも通える学区内に学校があるとよい。
- **市長（富田成輝君）** 特別支援学級の子や外国人等、その子その子に応じた高校、本当はみんな一緒に通える高校がいいが、こういう子たちに技術を教えることが大切。
- **教育委員（小野口裕子君）** 特別支援学級の子や不登校の子がふえて、その受け皿

としての高校もふえてきた。公立の高等学校の進学率が低下し、通信教育の学校や私学のそういった子を受け入れる学校等、そちらへ行く流れが顕著になってきた。

- **市長（富田成輝君）** きょうの委員の話、議論をまとめた上で、来年の予算要求を財政当局に示せる資料をお願いします。
- **教育委員（生駒隆昌君）** ケース・バイ・ケースではあるが、人対人のほうが子供には大事だと。そういうところの意識はよろしいか。
- **市長（富田成輝君）** 教育委員会全体の費用はわかった。ひとつの事業を始めると別の費用を削ることに当然なる。市の予算がふえていれば、ふやすだけかもしれないが、20年、30年と考えると厳しいので。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 4年前に入れていただいたSSWだが、非常に効果を發揮している。蘇南中校区では、先生方が一目で、誰が見てもこの生徒はどういう生徒かがわかるようになったとの事で、全体で指導できると校長先生が言っていた。
- **教育委員（丹羽千明君）** 学校の欠席者が、日の平均で60名が30名になったことは、そのSSWのおかげでもあると校長先生は言っていた。
- **教育委員（小野口裕子君）** できれば小学校にもSSWを置きたい。
- **市長（富田成輝君）** 議論が変わってきたので、議題の1はここまでとし、これより議題2のその他を伺う。
10年間で成果を見るという約束で導入したが、5年目になるQ-Uはいかがか。
- **学校教育課長（梅村高志君）** Q-Uアンケートは、学級集団の中でどういう立場の子がいるのか、困り感をより客観的に位置づけることのできる指標。以前は、教員の経験値で、この子はこういう子に違いない、きつこう思っておるからこうしようと指導していた。Q-Uアンケートの回答を客観的に分析することでその子の位置がわかる。それを年度2回行っている。そうすると、1年の初期の段階で学級の状態が非常に白けている理由は、こういう集団層があったなどがわかると、1学期の後半から2学期に対策ができる。そして2学期、10月から11月にかけてもう一度実施すると、明らかに変化が出てくる。ここに非常に困り感が強い子が判明することもある。そして、3月までの間にもう一つ対策し、次の学年に上げてあげると。もちろん、先生の経験値も大事。それ1本で行ってきたことに加え、もう1本客観的な指標が持てた。また、若い先生が、私のクラスの分布こうと言うと、ベテラン先生が、具体的にアドバイスができる。私、9年ぶりに可児市で勤務していい意味で不思議でしたが、この取り組みが、直接的ではないにしても16校がこれだけ落ちつきを見せている理由は、こういった取り組みがつながっているのではと。

○ **市長（富田成輝君）** 財政当局に指示しているのは、全ての事業、特にソフト事業については長くても5年たったら全部一旦やめよう。来年以降引き続き実施する場合は、こういう成果が出たと言えるところだけ引き続きとしている。そこから効果がないものはやめて、より効果のある時代のニーズに合ったほうに財源を投入しなくては。スクールサポーターの話でも他でも財源をつくる必要があるので、そういった考えが大事。ぜひQ-Uアンケート、続けるのであればしっかり効果を説明できるように。Q-Uについては10年間みるとしている。

スクールソーシャルワーカーについても成果を迫々伺いたいので整理しておくように。

○ **教育委員（丹羽千明君）** 先週、広見小学校と今渡南小学校のキッズクラブを見学した。夏休み期間だが、座る席がないぐらい定員いっぱい。現場から空き教室を追加で借りればと伺った。必要な人は来ていただく必要があると思うが、親の楽のために利用しているのではとも感じた部分もあった。特に5・6年は必要ないのではと。これからさらに希望者がふえる。本当に必要な人にサービスができるよう配慮をお願いする。

○ **市長（富田成輝君）** 非常に難しい議論ではある。私の基本的な考えは原則6年までオーケー。しかし、物理的な対応、指導員の対応ができなければ、申しわけないが、6年、5年と上級の順番に遠慮してもらおう。

キッズクラブ以外には、公民館や、図書館、児童センターが行う教室等がある。それらを核として、1週間に1・2回ではあるが、どこか行ける場所があって親も安心となる居場所づくりをすすめたい。また、民間とも協力してつくっていくことも望ましい。

○ **教育委員（小野口裕子君）** 今、子どもの貧困がよく言われるようになった。可児市にもそういう状況下に置かれている子供たちは少なくないと思うがいかがか。

○ **市長（富田成輝君）** 少なくないが多くはない。多くはないがいないことはない。

○ **教育委員（小野口裕子君）** 民間で子供食堂を始めた方がいるが、ある地域では先生のOBが寺子屋のようなものを行っているところもある。そういう学習面でのフォローも含めた居場所づくりが広まるとよい。

○ **市長（富田成輝君）** 貧困の場合は生活保護制度があるので、基本的にはそれに対応する。寺子屋の話も、民間の塾を圧迫するかという意見もありそう。行政が行うには問題があるが、民間がやるのは自由。

○ **教育委員（小野口裕子君）** やはり地域力だと思うので、地域で育てていくという意味で呼びかけることも必要。

- **市長（富田成輝君）** いろいろ経験のある人たちが、職種や趣味等の経験を活かしたものがボランティアなどで実施されるとよい。本来は小・中学校があるから学習はそこで十分。基本的に税金は小・中学校の充実に使うのが本筋。民間でそういう動きがあるのは歓迎すべきことだが。
- **事務局長（長瀬治義君）** 視察に関してはよろしいか。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 京都市のまなびの街生き方探究館。そういった施設があればよいが、現実難しい。
- **教育委員（小野口裕子君）** まなびの街生き方探究館はやはり地域力というか各企業の協力が必要だと感じた。あと、高槻市の古墳博物館・古墳公園も規模が違うが、ボランティアの力がすごい。NPOの力をかりてできるという部分があった。
- **市長（富田成輝君）** 段階として、可児市の場合はスタートしたのが最近なため、まず、可児市のいいところを知ってもらおう。そうするとボランティアも生まれる。全国的に脚光を浴びると、これはやらなければと盛り上がるが、そうでもないとなかなか。今の城跡は、兼山で城を盛り上げ出して、久々利も始めて、ほかに負けないと盛り上げて、それこそ活性化になれば。
- **教育委員（小野口裕子君）** 古墳博物館は、公民館や図書館と同じ考え方で入場料が無料。またリピーターが多く、市民が何回も足を運んでいる。隣の古墳公園はお弁当を持って一日遊べるという環境づくりをしていた。そういうのを参考にできたらよい。
- **市長（富田成輝君）** 公共施設の利用に関する市民検討委員会委員の意見でもいただいている。
- **教育委員（小野口裕子君）** 古墳公園は昼夜関係なく24時間開放されている。
- **市長（富田成輝君）** それは、市役所はもちろん市民が、自分たちのものならみんなですっかり監視しながら大切にするという意識ができてから開放できるということなのでは。例えば、緑の丘周辺など、犬の立入禁止をやめると言われるが、そうしないと草が枯れてしまうので禁止にするが、利用者の皆さんすべてがしっかり理解しているなら何の規制もいらないと思う。
- **教育委員（星野京子君）** 古墳博物館・古墳公園は、市民が身近に感じるができる施設としてとてもよかった。当時、箱物をつくることにすごく反対があったが、館長が地元の方で一生懸命やられたと伺った。久々利に住んでいる者として、可児郷土歴史館が古くなって、しかも無料ではない。図書館等と同様に考えると、無料にし

て市民がいつでも何回でも行けるとよい。

- **市長（富田成輝君）** お金の話だけではないが、ある程度の受益者負担は必要だと考えている。
- **教育委員（星野京子君）** 子供たちが可児市の歴史を勉強する上で、何か工夫があるとよい。あと、チャンバラ合戦をうまく使って歴史館等でも盛り上がるとよい。
- **教育委員（小野口裕子君）** 今城塚古墳は必ず全小学校4年生以上が見学している。可児市もこの史跡には必ず授業で行くとするとは。
- **市長（富田成輝君）** 私は、そのように教育委員会にお願いしている。市長に就任して、まず市の職員はこことこことこは絶対行けと初任者研修で言っている。また、可児市へ新しく来た先生には全部行ってもらうようお願いしている。そうでないと子供たちに教育できない。
- **教育委員（小野口裕子君）** やはり子供にも社会科の授業の一環として見ていく、そういうことで可児市にこういうところがあるんだというふるさと愛が出てくると思う。ぜひそれを実現していただきたい。
- **教育長（籠橋義朗君）** 初任者の先生には伝えている。
- **市長（富田成輝君）** それによって序々に効果はある気がする。例えば子供たちが書く可児市の宝物・我が家の宝物がバラエティーに富んできた。以前はお茶などはなかった。子供たちは非常に敏感だから少し教えれば、すぐに気づく。だから、まずは公務員と先生が知らないといけない。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 体験学習費でいろいろなところを見学・体験ができ、すばらしい授業だと思う。
- **市長（富田成輝君）** 今回の観光グランドデザインの7つの中心の柱は、子供たちには全部見てもらわないと話にならないと思う。来やすい仕組みが無料でいいのかということ。
- **教育委員（小野口裕子君）** 古墳博物館も常設展は無料だが、特別展に限り入場料300円が必要。また、ボランティアはNPOで6,000人いると。可児市でいう陶芸教室レベルの体験が毎日やっている。
- **市長（富田成輝君）** そのレベルに達するまで、長い年月があったと。

- **教育委員（小野口裕子君）** 10年ぐらいだと。

- **市長（富田成輝君）** 可児市が始めたのはまだつい最近。やはり市民の盛り上がり
が大事。過度に負担をかけても潰れてしまう。可児市はバラエティーに富んでいる。
可児川を大切にしておる人、我田の森を大切にする人、お城が好きな人、古墳・陶器
が好きな人、いろいろな人がいることが可児市の特徴だと思う。

- **教育総務課長（細野雅央君）** 以上で議題を終了する。
限られた時間の中、いろいろな御意見をいただき感謝する。特に特別支援教育におい
てはいろいろ宿題をいただいたと認識している。事務局でできることは最大限努力する。

閉会の宣告

- **市長（富田成輝君）** 平成28年度第1回総合教育会議の閉会を宣告。

閉会 午後3時25分